

授業科目名	授業担当者(担当)氏名	区分	単位	年間授業時間	受講学年	開講年次
作品分析Ⅰ	新垣 隆	必修	2	30時間	1	毎年

《授業の概要》

作品分析、及びその方法、そしてその意味への問いも含む。

《到達目標》

西洋音楽への多角的な視点を持つこと

《授業計画》

第1回 [4/15(金) 14:00～15:40]

授業: ソナタ形式の概略

事前: なし

事後: この一年間は「ソナタ形式」に常に関わることとなるので、それを踏まえて各自の見通しを立てる(60分)

第2回 [4/16(土) 14:00～15:40]

授業: 自作2曲解題

事前: 前回の内容を踏まえ、それが「現代」とどのように関わるのか、考えておく。(60分)

事後: バッハ(時代)の「フーガ」の任意の曲を各自、詳細に分析する。(120分)

第3回 [5/27(金) 14:00～15:40]

授業: ソナタ形式でないもの—①

事前: 三部形式、ロンド形式、変奏曲などの「形の捉えやすさ」について考えをまとめておく。(30分)

事後: 「ヨーロッパの思考」について文献を読む。(120分)

第4回 [5/28(土) 14:00～15:40]

授業: 「ソナタ」(の作曲)の現在における有用性を検討する。

事前: 前回(4月)の内容を復習しておく。(30分)

事後: 「音楽的時間」と「歴史的時間」について考える。(120分)

第5回 [6/24(金) 14:00～15:40]

授業: マーラー「交響曲第7番」第1楽章

事前: 「ソナタ形式」を聴いて「把握」できるよう訓練しておく。(120分)

事後: 形式のさまざまな「工夫」について考える。(120分)

第6回 [6/25(土) 14:00～15:40]

授業: 新垣「習作期のソナタ」

事前: ショパン「バラード第1番」の「形式」を掴んでおく。(60分)

事後: ハイドン、モーツァルトなどの弦楽四重奏曲(ソナタ)を調べる。(120分)

第7回 [7/11(月) 14:00～15:40]

授業: グラズノフ「ヴァイオリン協奏曲」

事前: 上記の作品も「ソナタの工夫」の一例である。調べておくこと。(60分)

事後: 後期ロマン派のさまざまな作品について調べる。(120分)

第8回 [7/12(火) 14:00～15:40]

授業: 幸田延「ヴァイオリンソナタ 断章」

事前: 日本の三味線音楽について調べておく。(60分)

事後: 明治時代の「欧化政策」について調べる。(120分)

- 第9回 [9/29(木) 14:00~15:40]  
 授業: ソナタ形式ではないもの②  
 事前: 改めてバロック期の「組曲」に触れておく。(ex. 「フランス組曲」「パルティータ」「チェロ組曲」など)(60分)  
 事後: 「小品を集めて“アルバム”をつくる」を2, 3試みること。(60分)
- 第10回 [9/30(金) 14:00~15:40]  
 授業: ウェーベルン「ヴァイオリンとピアノのための4つの小品」  
 事前: カデンツ(和音の連鎖)と「音の連鎖」(サンプリング)について考えておく。(30分)  
 事後: 20世紀美術の道向を調べる。(120分)
- 第11回 [10/28(土) 14:00~15:40]  
 授業: R.シュトラウスの交響詩  
 事前: バルトークの「自伝」を読んでおくこと。(30分)  
 事後: レーガー、スクリャービンについて調べる。(120分)
- 第12回 [10/29(金) 14:00~15:40]  
 授業: 明治期の「音楽取調成績申報書」を読む。  
 事前: 「音楽の輸入」とは何かについて考える。(30分)  
 事後: 自分の音楽的形成の過程を相対化し、このテーマと照らし合わせる。(120分)
- 第13回 [11/25(金) 14:00~15:40]  
 授業: ソナタ形式でないもの③  
 事前: 西洋音楽「以来」のあらゆる音楽(いわゆる「民族音楽」)を聴いておく。(120分)  
 事後: 「形式」について改めて考える。(30分)
- 第14回 [11/26(土) 14:00~15:40]  
 授業: 幸田延「滞欧日記」を読む  
 事前: 1910年の世界、および日本の社会的出来事について調べておくこと。(120分)  
 事後: 「戦争の起こる“前”」のさまざまなケースについて調べ、考える。(120分)
- 第15回 [12/15(木) 14:00~15:40]  
 授業: ベートーヴェン「ウェリントンの勝利またはビットリアの戦い」(1813)  
 事前: この作品が当時あるいは後世にどのように受け入れられていたかを調べる。(60分)  
 事後: 「音楽家の役割」について考える。(120分)

《履修資格／履修に必要な予備知識や技能》

1年次生

《授業の形式》

講義

《成績評価の要点》

試験: 1% 提出課題・作品発表等 1% 受講姿勢: 100%  
 成績評価は、上記の項目に基づき「優」「良」「可」「不可」で評価する。

《課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法》

授業内でコメント

《授業時間以外で、この授業内容等について質問がある場合》

その日のすべての授業の終了後に受け付ける。